

[果樹部門]

3. 「さきがけはくとう」の若木における主枝形成時の留意点

[要約]

「さきがけはくとう」は、若木において頂芽以外の芽が旺盛に成長し、主枝の成長を抑制することがあるので、主枝の先端が強く伸長するように留意する。

[担当] 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 情報

[背景・ねらい]

岡山県オリジナル品種である「さきがけはくとう」は、「日川白鳳」よりやや早熟で着色しにくく、食味・外観が優れる品種である（平成 25 年 6 月品種登録）。今後、県内への普及に向けて、本品種の若木における主枝形成時の留意点を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「さきがけはくとう」は、「清水白桃」に比べて頂芽以外の副梢などの芽が旺盛に成長する割合が高い（図 1、表 1）。特に、2～3 年生樹でその傾向が強い。

[成果の活用面・留意点]

1. 主枝の候補枝よりも旺盛な成長を示す新梢が発生した場合、早期に摘心やねん枝を行う。
2. 主枝の先端の勢いが低下した場合は、先端部を旺盛な成長を示す枝に立て替えるのが望ましい。

[具体的データ]



図1 「さきがけはくとう」において頂芽以外の芽が旺盛に成長した様子

表1 「さきがけはくとう」及び「清水白桃」の主枝先端を切り返した後、頂芽以外の芽が旺盛に成長した割合（2013）

品種	樹齢	調査数 (本)	先端以外が 強く伸長した数 (本)	割合 (%)
さきがけはくとう	2・3年	28	7	25.0
	4年	17	1	5.9
清水白桃	4年	32	0	0

[その他]

研究課題名：モモのオリジナル品種の高品質安定生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2012～2016 年度

研究担当者：荒木有朋、樋野友之、藤井雄一郎

関連情報等：[日原ら（2012）岡山県農業研報、3：11-15](#)